

投資者の利便性を飛躍的に向上させる 次世代ネットワーク「arrownet」

世界規模で証券取引所間の競争が激化し、金融商品の魅力に加え、ファシリティも重要視されている。各証券取引所は、売買注文の処理速度をミリ秒単位の処理時間で実現しつつある。処理速度の向上とともに、取引所と投資者間での通信の伝送遅延が問題視され始めている。その切り札として東京証券取引所が用意したのが、「コロケーションサービス」だ。コロケーションサービスとそれを支えるネットワークインフラ「arrownet」について、常務取締役・鈴木義伯氏、ITサービス部長・吉田康宏氏、ITサービス部・マネージャー・坂本忍氏に話を聞いた。



常務取締役
最高情報責任者
鈴木 義伯 氏



ITサービス部長
吉田 康宏 氏



ITサービス部 マネージャー
坂本 忍 氏

ネットワークインフラとファシリティの 充実で取引所としての魅力を高める

—はじめに、証券取引所を取り巻く環境について
お聞かせください。

鈴木 証券取引所のグローバル化が進んでおり、世界規模で証券取引所の再編が進んでいます。海外の取引所のビジネスモデルは、従来の少数の証券会社による取引から、不特定多数の投資家による取引へと移行しています。取引の質も変化しており、コンピュータを使った「アルゴリズム取引」による自動注文の普及により、取引の小口化が進んでいます。その動きに対応するため、各取引所は、売買システムの処理性能を高めています。東証でも、グローバルな市場間競争に打ち勝つため、売買システム及びネットワークシステムの刷新や新しいサービスの提供を開始しています。

—その新しいサービスは、どのような物でしょうか。

吉田 東証のこれまでの売買システムでは、処理時間に2～3秒ほどかかっていましたが、次世代売買システム（arrowhead）では売買注文の処理時間が10ミリ秒以下になります。これほど高速になると、これまで問題にされなかった投資者と東証との伝送時間が問題視されるようになります。それを解消するのがコロケーションサービスです。これは東証のデータセンター内に投資者のサーバを設置することで、伝送時間を短縮し、より早い注文

処理を実現するサービスです。2009年秋稼働予定の新オプション売買システム（Tdex+システム）からサービスの提供を開始し、2010年1月稼働予定のarrowheadに対象を拡大していく予定です。投資者は、少しでも早く注文処理が行われることを望んでいます。コロケーションサービスは、そのようなニーズとも合致し、投資者の利便性を大きく向上させることにつながると思います。

鈴木 証券取引所は、上場されている金融商品の魅力に加え、ネットワークインフラやファシリティの充実が求められるようになりました。競争力のない取引所には、投資者が集まりません。arrowheadやarrownetに加え、コロケーションサービスを提供することで、これまで以上に投資者が満足できる環境が整います。それによって、東証は世界と対等に戦える準備ができたと考えています。

首都機能が麻痺しても稼働する 堅牢性を確保

—コロケーションサービスを支える「arrownet」の概要を
教えてください。

吉田 arrownetは、東証のシステムと投資者をつなぐネットワークです。データ量の大きな変化にも対応できるだけのキャパシティを持っており、コロケーションサービスでも活用されます。